

予防接種のしおり

**** 予防接種と子どもの健康 ****

☆ 保護者の方は必ず読んでください ☆



八雲町

お問い合わせ先

- * シルバープラザ保健福祉課健康推進係 ☎ 0137-64-2111
- * 熊石総合支所住民サービス課住民福祉係 ☎ 01398-2-3111

予診票記入上の注意

○出かける前に、もう一度内容を確認してみましょう。

〇〇予防接種予診票

予防接種に来る直前に熱を測り記入してください。

住所	診察前の体温	度	分
フリガナ	電話番号		
受ける人の氏名	男・女	生年月日	令和 年 月 日生 (満 歳 ヶ月)
保護者の氏名			

質問事項	回答欄		医師記入欄
今日受ける予防接種について市町村から配られている説明書を読みましたか	はい	いいえ	
あなたのお子さんの発育歴についておたずねします 出生体重 () g 分娩時に異常がありましたか 出生後に異常がありましたか 乳児健診で異常があるといわれたことがありますか	あった あつた ある	なかった なかつた ない	
今日体に具合の悪いところがありますか 具合の悪い症状を書いてください ()	はい	いいえ	
最近1か月以内に病気にかかりましたか 病名 () (月 日)	はい	いいえ	
1か月以内に家族や遊び仲間へ麻しん、風しん、水ぼうそう、おたふくかぜなどの病気の方がいましたか 病名 ()	はい	いいえ	
1か月以内に予防接種を受けましたか 予防接種名 () 接種月日 (月 日)	はい	いいえ	
生まれてから今までに特別な病気(先天性異常、心臓、腎臓、肝臓、脳神経、免疫不全症、その他の病気)にかかり医師の診察を受けていますか 病名 ()	はい	いいえ	
その病気をみてもらっている医師に今日の予防接種を受けてよいといわれましたか	はい	いいえ	
ひきつけ(けいれん)をおこしたことがありますか () 歳頃	はい	いいえ	
そのときに熱がでましたか	はい	いいえ	
薬や食品で皮膚に発疹やじんましんが出たり、体の具合が悪くなったことがありますか	はい	いいえ	
近親者に先天性免疫不全と診断されている人はいますか	はい	いいえ	
これまでに予防接種を受けて具合が悪くなったことはありますか 予防接種名 ()	ある	ない	
近親者に予防接種を受けて具合が悪くなった人はいますか	はい	いいえ	
6か月以内に輸血あるいはガンマグロブリンの注射を受けましたか	はい	いいえ	
今日の予防接種について質問がありますか	はい	いいえ	

保護者のサインを忘れずに!

医師記入欄
以上の問診及び診察の結果、今日の予防接種は(実施できる・見合わせた方がよい)と判断します。
保護者に対して、予防接種の効果、副反応及び予防接種健康被害救済制度について、説明をしました。
【 医師署名又は記名押印 】

医師の診察・説明を受け、予防接種の効果や目的、重篤な副反応の可能性、予防接種健康被害救済制度などについて理解した上で、接種することに(同意します・同意しません) ※かつこの中のどちらかを○で囲んでください。
この予診票は、予防接種の安全性の確保を目的としています。このことを理解の上、本予診票が市町村に提出されることに同意します。
【 保護者自署 】

使用ワクチン名	接種量	実施場所・医師名・接種年月日
ワクチン名 ○〇ワクチン	(皮下接種) 0.5ml	実施場所:
L o t No	接種部位 右上腕(上・下) 左上腕(上・下) 右足・左足 その他()	医師名: 接種年月日: 令和 年 月 日

(注) ガンマグロブリンは、血液製剤の一種で、A型肝炎などの感染症の予防目的や、重症の感染症の治療目的などで注射されることがあり、この注射を3～6か月以内に受けた方は、麻しんなどの予防接種の効果が十分に出ないことがあります。

◇◇◇ 予防接種に行く前のチェック ◇◇◇

- 1 子供の体調はよいですか。
- 2 今日受ける予防接種について理解していますか。
- 3 母子健康手帳は持ちましたか。
- 4 予診票の記入はすみえましたか。

1. 予防接種を受けましょう

お母さんが赤ちゃんにプレゼントした病気に対する抵抗力（免疫）は、百日せきでは生後3カ月までに、麻疹では生後12カ月にはほとんどが自然に失われていきます。そのため、この時期を過ぎると、赤ちゃん自身で免疫をつくって病気を予防する必要があります。その助けとなるのが予防接種です。

子供は発育と共に外出の機会が多くなり、感染症にかかる可能性も高くなります。予防接種に対する正しい理解の下で、お子さんの健康にお役立てください。

2. 予防接種のワクチンと特徴

（1）予防接種（ワクチン）とは

麻疹や百日せきのような感染症の原因となるウイルスや細菌または菌が作り出す毒素の力を弱めて予防接種液（ワクチン）をつくり、それを体に接種して、その病気に対する抵抗力（免疫）をつくることを、予防接種といいます。「予防接種」に使う薬液のことを「ワクチン」といいます。

すべての病気に対してワクチンがつかれるわけではなく、細菌やウイルスなどの性質によってできないものもあります。

（2）予防接種（ワクチン）の種類と特徴

予防接種で使うワクチンには、生（なま）ワクチン、不活化（ふかつか）ワクチンの2種類があります。

生ワクチンは生きて細菌やウイルスの毒性を弱めたもので、これを接種することによってその病気にかかった場合と同じような抵抗力（免疫）をつくらせるものです。定期のワクチンでは、ロタウイルスワクチンやBCGワクチン・水痘ワクチン・MR（麻疹風疹混合）ワクチンがこれにあたります。接種後から体内で毒性を弱めた細菌やウイルスの増殖がはじまりますから、それぞれのワクチンがもっている性質に応じて、発熱や発疹の軽い症状が出る場合があります。十分な抵抗力（免疫）ができるのに約1ヶ月が必要です。

不活化ワクチンは細菌やウイルスを殺し、抵抗力（免疫）をつくるのに必要な成分を取り出して毒性をなくしてつくったものです。定期接種のワクチンでは、四種混合ワクチンや二種混合ワクチン・ヒブワクチン・小児用肺炎球菌ワクチン・日本脳炎ワクチン・B型肝炎ワクチンがこれにあたり、体の中で細菌やウイルスは増殖しないため、数回接種することによって抵抗力（免疫）ができます。一定の間隔で2～3回接種し、最小限必要な抵抗力（基礎免疫）ができたあと、約1年後に追加接種をして十分な抵抗力（免疫）ができることとなります。しかし、しばらくするとすこしずつ抵抗力（免疫）が減ってしまいますので、長期に抵抗力（免疫）を保つためにはそれぞれのワクチンの性質に応じて一定の間隔で追加接種が必要です。

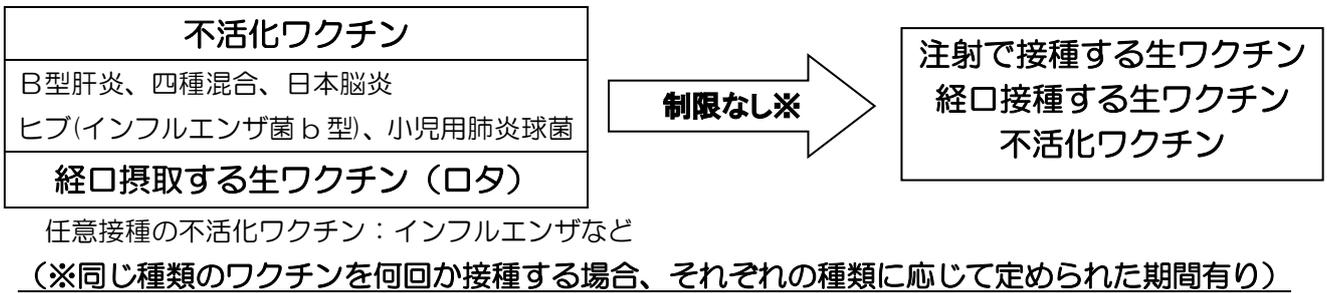
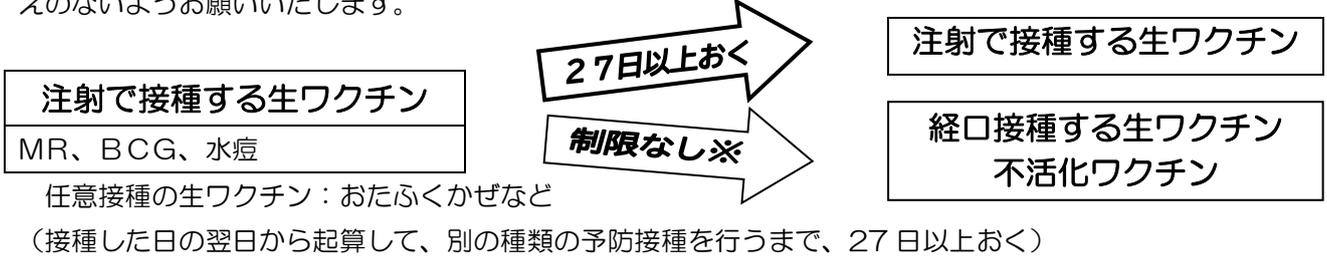


3. 受ける時期と接種の間隔

(1) 違う種類のワクチンを接種する場合の間隔

予防接種で使うワクチンには、生ワクチンと不活化ワクチンがあり、違う種類のワクチンを接種する場合に間隔を守ることが必要です。急に保育園や幼稚園に入ることになったり、家族と海外で暮らすことになったりして、異なった種類のワクチンを特に急いで接種する場合は、医師に相談してください。

なお、同じ種類のワクチンを何回か接種する場合には、それぞれ定められた期間がありますので、お間違えのないようお願いいたします。



(2) 接種対象年齢

	年齢																			
	2 月	3 月	6 月	9 月	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	7 歳	7 歳 6 月	8 歳	9 歳	1 0 歳	1 1 歳	1 2 歳	1 3 歳		
B型肝炎																				
ヒブ																				
小児用肺炎球菌																				
ロタ	1 価																			
	5 価																			
四種混合																				
BCG																				
水痘																				
MR																				
日本脳炎																				

- 標準的な接種期間
- 予防接種法で定められた対象年齢
- ※ 四種混合第2期(二種混合)は、小学校6年生の時に接種します。
- ※ MR 2期は、年長児(小学校に入学する年度の1年前)に接種します。
- ※ 日本脳炎は、標準的には3歳から接種します。

接種名	標準的な接種時期と回数
B型肝炎	初回：生後2か月から9か月までに、27日以上の間隔をおいて2回接種 追加：第1回目の注射から139日以上の間隔をおいて1回接種
ヒブ	初回：生後2か月から7か月までに、27日以上の間隔をおいて3回接種 （初回接種3回は1歳に至るまでに接種） 追加：初回接種終了後7か月から13か月の間隔をおいて1回接種
小児用肺炎球菌	初回：生後2か月から7か月までに、27日以上の間隔をおいて3回接種 （初回接種3回は1歳に至るまでに接種） 追加：初回接種終了後60日以上の間隔をおいて、生後12か月から15か月の間に1回接種
ロタ	初回：生後2か月から生後14週6日までに接種 1価ワクチン：生後24週までに4週間以上の間隔をおいて2回経口接種 5価ワクチン：生後32週までに4週間以上の間隔をおいて3回経口接種
四種混合	第1期初回：生後2か月から1歳までの間に20日から56日の間隔をおいて3回接種 第1期追加：第1期初回接種（3回）終了後12か月から18か月の間隔をおいて1回接種 第2期（二種混合）：11歳から12歳の間に1回接種
BCG	生後5か月から8か月までに1回接種
水痘	1回目：生後12か月から15か月の間に1回接種 2回目：1回目接種終了後6か月から12か月の間隔をおいて1回接種
MR（麻しん風しん混合ワクチン）	第1期：1歳から2歳までに1回接種 第2期：5歳以上7歳未満で、小学校入学前の1年間（年長児）に1回接種
日本脳炎	第1期初回：3歳から4歳までに6日から28日の間隔をおいて2回接種 第1期追加：4歳から5歳までに、第1期初回接種終了後6か月以上の間隔をおいて1回接種 第2期：9歳から10歳までに1回接種

4. 予防接種の有効性

予防接種は、その病気にかからないことを目的にしていますが、受ける人の体質、その時の体調などによって抵抗力（免疫）ができないこともあります。確実に抵抗力ができたかどうかを知りたい場合には血液をとって血中の抗体を測定する方法（有料）もあります。また、不活化ワクチンでは、抵抗力ができてもしばらくすると少しずつ減っていきますので、長期に抵抗力を保つため一定の間隔で追加接種が必要です。病気等で予定通り接種ができなかったときには、抵抗力のできにくい時もありますから、かかりつけ医や接種をする医師に相談してみましょう。

5. 予防接種を受けに行く前に

（1）一般的注意

予防接種は体調のよい時に受けるのが原則です。日頃から保護者の方はお子さんの体質、体調など健康状態によく気を配ってください。

安全に予防接種を受けられるよう、保護者の方は、以下のことに注意の上、判断してください。

① 当日は朝から子どもの状態をよく観察し、普段と変わったところのないことを確認してください。予防

接種を受ける予定であっても、体調が悪いと思ったら、かかりつけ医に相談の上、判断をしましょう。

② 受ける予定の予防接種について、このしおりをよく読んで、必要性や副反応についてよく理解しましょう。

わからないことは、接種を受ける前に接種医や保健師に質問しましょう。

③ 母子健康手帳は必ず持っていきましょう。

④ 予診票は、接種する医師への大切な情報です。責任をもって記入するようにしましょう。

⑤ 予防接種を受ける子どもの日頃の健康状態をよく知っている保護者の方が連れていきましょう。

なお、予防接種の効果や副反応などについて理解した上で、接種に同意したときに限り、接種が行われます。

(2) 予防接種を受けることができない場合

① 明らかに発熱のあるお子さん（通常37.5℃以上をいいます。）

② 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかなお子さん。

急性で重症な病気にかかっているお子さんは、その後の病気の変化もわからないことから、その日は接種を受けないのが原則です。

③ その日に受ける予防接種の接種液に含まれる成分で、アナフィラキシーを起こしたことがあることが明らかなお子さん。

④ BCG 接種の場合においては、外傷などによるケロイドが認められるお子さん。

⑤ B 型肝炎の予防接種対象者で、母子感染予防として、出生後に B 型肝炎ワクチンの接種を受けたお子さん。

⑥ ロタ接種の場合においては、腸重積症の既往歴が明らか、もしくは先天性消化管障害（治療が完了したものを除く）や重症複合型免疫不全症を有するお子さん。

⑦ その他、医師が不適当な状態と判断した場合。

(3) 予防接種を受けるに際し、医師とよく相談しなくてはならない人

以下に該当すると思われる人は、主治医がいる場合には必ず前もって診てもらい、接種を受けてよいかどうかを判断してもらいましょう。主治医から診断書又は意見書をもらってから接種を受けるようにしてください。

① 病気が治ってから一定の間隔があいていないお子さん（麻疹、風疹、おたふくかぜ、水ぼうそう、突発性発疹、手足口病、インフルエンザなど）医師が状況を確認し、接種できるかどうか判断します。

② 心臓病、腎臓病、肝臓病、血液の病気、発育障害などで治療を受けているお子さん

③ 予防接種で、接種後2日以内に発熱、発疹、じんましん等アレルギーと思われる異常がみられたお子さん

④ 今までにけいれん（ひきつけ）を起こしたことがあるお子さん

けいれん（ひきつけ）の起こった年齢、そのとき熱があったか、なかったか、その後起こっているか、受けるワクチンの種類は何かなどで条件が異なります。必ずかかりつけ医と事前によく相談しましょう。

⑤ 過去に免疫不全の診断がなされている人や、近親者に先天性免疫不全症の人がいるお子さん

⑥ ワクチンにはその製造過程における培養に使う卵の成分、抗菌薬、安定剤などが入っているものがあるので、これらにアレルギーがあるといわれたことのあるお子さん

⑦ ラテックス過敏症のお子さん（B 型肝炎予防接種）

ラテックス過敏症とは、天然ゴムの製品に対する即時型の過敏症です。ラテックス製の手袋を使用時にアレルギー反応が見られた場合に疑います。

⑧ 家族に結核患者がいて長期間に接触があった場合など、過去に結核に感染している疑いのあるお子さん（BCG 接種）

(4) 予防接種を受けた後の一般的注意事項

① 予防接種を受けたあと30分間は、接種会場でお子さんの様子を観察するか、医師とすぐに連絡をとれるようにしておきましょう。急な副反応が、この間に起こることがまれにあります。

② 接種後、生ワクチンでは4週間、不活化ワクチンでは1週間は副反応の出現に注意しましょう。

- ③接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は差し支えありませんが、接種部位をこすことはやめましょう。
- ④接種当日は、はげしい運動はさげましょう。
- ⑤接種後、接種部位の異常な反応や体調の変化があった場合は、速やかに医師の診断を受けましょう。

6. 予防接種の対象となる病気と予防接種による副反応

B型肝炎ワクチン（灰色の予診票）

【 B型肝炎の予防 】

（1）接種時期（ヒブ・肺炎球菌・ロタ・四種混合ワクチンと同時接種でおこなっています）

初回：生後2か月から9か月までに、27日以上の間隔をおいて2回接種。

追加：第1回目の注射から139日以上の間隔をおいて1回接種。

※B型肝炎ウイルスに感染した妊婦から生まれて、健康保険の対象としてワクチンの接種を受けた方は、定期接種の対象者から除かれます。

（2）病気の説明

B型肝炎とは、B型肝炎ウイルスの感染により起こる肝臓の病気です。ウイルスへの感染は、一過性の感染で終わる場合と、そのまま感染している状態が続いてしまう場合（この状態をキャリアといいます）があります。キャリアになると慢性肝炎になることがあり、そのうち一部の人では肝硬変や肝がんなど命に関わる病気を引き起こすこともあります。

B型肝炎ウイルスは血液や体液を介して感染します。主な感染経路は、母子感染（垂直感染）や性行為感染、輸血等（水平感染）があります。

（3）副反応について

接種を受けた者の10%前後に倦怠感、頭痛、局所の腫脹、発赤、疼痛等がみられたと報告されていますが、新生児・乳児についても問題なく行われています。

ヒブワクチン（緑色の予診票）

【 細菌性髄膜炎の予防 】

（1）接種時期（B型肝炎・肺炎球菌・ロタ・四種混合ワクチンと同時接種でおこなっています）

初回接種：生後2か月から7か月までに、27日以上の間隔をおいて3回接種

（初回接種3回は、1歳に至るまでに接種）

追加接種：初回接種終了後7か月から13か月の間隔をおいて1回接種

（2）病気の説明

ヒブとは、ヘモフィルス属インフルエンザb型菌の略称です。ヒブは、子供の鼻や喉にいることもありますが、そのままでは病気になりません。ヒブが血液や肺の中に侵入すると、髄膜炎や敗血症・急性喉頭炎などの深刻な病気を引き起こします。

細菌性髄膜炎の初期症状は、発熱、おう吐、元気が無いなど、かぜの症状と変わりなく、早期発見が困難で、しかも急速に病状は進行します。さらに最近では抗生物質の効かない菌（耐性菌）も増えており、治療が困難になってきています。

ヒブによる細菌性髄膜炎は、5歳未満の乳幼児がかかりやすく、特に生後3か月から2歳になるまではかかりやすいので注意が必要です。

(3) 副反応について

局所反応が中心で発赤、腫脹、硬結（しこり）、疼痛、全身反応は発熱、不機嫌、食思不振などが認められています。

小児用肺炎球菌ワクチン（青色の予診票）

【 小児の肺炎球菌感染症の予防 】

(1) 接種時期（B型肝炎・ヒブ・ロタ・四種混合ワクチンと同時接種でおこなっています）

初回接種：生後2か月から7か月までに、27日～56日の間隔をおいて3回接種

（初回接種3回は、1歳に至るまでに接種）

追加接種：初回接種終了後60日以上の間隔をおいて、生後12か月～15か月の間に1回接種

(2) 病気の説明

肺炎球菌は元気な子供の鼻や喉にでもいるような、ごく身近な菌です。しかし、風邪などにより抵抗力が落ちて、体内に入り込んでしまった場合、髄膜炎や菌血症、肺炎などの深刻な病気を引き起こします。

肺炎球菌による髄膜炎にかかるリスクが高いのは、0歳児が全体の約半数を占め、それ以降は年齢とともにリスクも減少しますが、5歳くらいまでは要注意です。

(3) 副反応について

接種局所の紅斑、腫脹、全身反応として主なものは発熱（37.5℃以上）です。

ロタウイルスワクチン（白色の予診票）

【 ロタウイルス感染症の予防 】

(1) 接種時期（B型肝炎・ヒブ・肺炎球菌・四種混合ワクチンと同時接種でおこなっています）

1回目：生後2か月から生後14週6日までに接種。

2回目以降

1価：4週間以上の間隔をおいて、生後24週までに1回接種。

5価：4週間以上の間隔をおいて、生後32週までに2回接種。

※腸重積症にかかったことのある方、先天性消化管障害をお持ちの方、重症複合型免疫不全症の方は、定期接種の対象から除かれます。

(2) 病気の説明

ロタウイルスによって引き起こされる急性の胃腸炎で、乳幼児期（0～6歳）にかかりやすい病気です。感染力が強く、通常5歳までにほぼ全てのこどもがロタウイルスに感染すると言われています。乳幼児は激しい症状が出る事が多く、特に初めて感染した時に症状が強く出ます。主な症状は、水のような下痢、吐き気、嘔吐、発熱、腹痛です。脱水症状がひどくなると点滴が必要となったり、入院が必要になることがあります。5歳までの急性胃腸炎の入院患者のうち、40～50%前後はロタウイルスが原因です。

(3) 副反応について

接種後に嘔吐、下痢などの胃腸炎症状がみられる場合があります。また、腸重積症（小腸が大腸の中に入り込んで重なってしまう病気）のリスクが自然に発症するよりも少し増加することが報告されています。

四種混合ワクチン（ピンク色の予診票）

【 ジフテリア・百日せき・破傷風・ポリオ（急性灰白髄炎）の予防 】

（１）接種時期（Ｂ型肝炎・ヒブ・肺炎球菌・ロタワクチンと同時接種でおこなっています）

第１期初回：生後２か月から１歳までの間に２０日から５６日の間隔をおいて３回接種 第１期追加：初回接種（３回）終了後、１２か月から１８か月の間隔をおいて１回接種 第２期（二種混合）：１１歳から１２歳の間に１回接種（個別にご案内します）
--

（２）病気の説明

①ジフテリア

ジフテリア菌の飛沫感染で起こります。１９８１年にワクチンが導入され、現在患者発生数は年間０～１人程度ですが、ジフテリアは感染しても１０％程度の人に症状が出るだけで、残りの人は症状が出ず保菌者となり、その人を通じて感染することもあります。

感染は主にのどですが鼻にも感染します。症状は高熱、のどの痛み、犬吠様のせき、嘔吐などで、偽膜ができて窒息死することがある恐ろしい病気です。発病２～３週間後には、菌の出す毒素によって心筋障害や神経麻痺を起こすことがあるため注意が必要です。

②百日（ひやくにち）せき

百日せき菌の飛沫感染で起こります。１９４８年から接種がはじまって以来、患者数は減少してきています。最近、長びくせきを特徴とする思春期、成人の百日せきがみられ、乳幼児への感染源となり重症化する例がありますので注意しましょう。

百日せきは普通のかぜのような症状ではじまります。続いてせきがひどくなり、顔を真っ赤にして連続的にせき込むようになります。せきのあと急に息を吸い込むので、笛を吹くような音が出ます。熱は通常出ません。乳幼児はせきで呼吸ができず、唇が青くなったり、けいれんが起きることがあります。肺炎や脳症などの重い合併症を起こします。乳児では命を落とすこともあります。

③破傷風（はしょうふう）

破傷風菌はヒトからヒトへ感染するのではなく、土の中にいる菌が傷口からヒトの体内に入り感染します。菌が体の中で増えると、菌の出す毒素のために、口が開かなくなったり、けいれんを起こしたり、死亡することもあります。患者の半数は自分や周りの人では気がつかない程度の軽い刺し傷が原因です。土中に菌がいるため、感染する機会は常にあります。また、お母さんが抵抗力（免疫）をもっていれば、出産時に新生児が破傷風にかかるのを防ぐことができます。

④ポリオ（急性灰白髄炎）

「小児マヒ」と呼ばれ、わが国でも１９６０年代前半までは流行を繰り返していましたが、現在は、予防接種の効果で国内での自然感染は報告されていません。しかし、現在でもインド、パキスタン、アフガニスタンなどではポリオの発生がみられ、これらの国々から飛び火したケースで日本人がポリオに感染したり、日本にポリオウイルスが入ってくる可能性があります。

口から入ったポリオウイルスは咽頭や小腸の細胞で増殖します。小腸の細胞ではウイルスは４～２５日間（平均７～１４日間）増殖すると言われています。増殖したウイルスは便中に排泄され、再びヒトの口に入り抵抗力を持っていないヒトの腸内で増殖し、ヒトからヒトへ感染します。症状が出る場合、ウイルスが血液を介して脳・脊髄へ感染し、麻痺を起こすことがあります。ポリオウイルスに感染すると１００人中５～１０人は、かぜ様の症状があり、発熱を認め、続いて頭痛、嘔吐があらわれます。また、感染した人の中で、約１,０００～２,０００人に１人の割合で手足の麻痺を起し、一部の人にはその麻痺が永久に残ります。また、

呼吸困難により死亡することもあります。

(3) 副反応について

注射部位の発赤、腫脹、硬結（しこり）などの局所反応が主で、硬結は少しずつ小さくなりますが、数か月残ることがあります。

BCGワクチン（水色の予診票）

【 結核の予防 】

(1) 接種時期

生後5か月から8か月までに1回接種

(2) 病気の説明

結核菌の感染で起こります。わが国の結核患者はかなり減少しましたが、まだ2万人を越える患者が毎年発生しており、大人から子どもへ感染することも少なくありません。また、結核に対する抵抗力はお母さんからもらうことができないので、生まれたばかりの赤ちゃんもかかる心配があります。乳幼児は結核に対する抵抗力が弱いので、全身性の結核症や、結核性髄膜炎など重い後遺症を残す可能性があります。

(3) BCGワクチンについて

BCGは牛型結核菌を弱毒化してつくった生ワクチンです。

BCGの接種方法は管針法といってスタンプ方式で上腕の2カ所に押しつけて接種します。接種したところは、日陰で乾燥させてください。10分程度で乾きます。

接種後10日頃に接種局所に赤いポツポツができ、一部に小さいうみができることがあります。この反応は、接種後1か月頃に最も強くなりますが、その後はかさぶたができて接種後3か月までには治り、小さな傷あとが残るだけになります。これは異常反応ではなく、BCG接種により抵抗力（免疫）がついた証拠です。自然に治るので、包帯をしたり、絆創膏をはったりしないで、そのまま清潔に保ってください。

ただし、接種後3か月を過ぎても接種のあとがジクジクしているようなときは医師に診てもらってください。

(4) 副反応について

接種をした側のわきの下のリンパ節がまれに腫れることがあります。通常放置して様子を見てかまいませんが、ときにただれたり、大変大きく腫れたり、まれに化膿して自然にやぶれてうみが出る場合があります。その場合には医師に診てもらってください。

また、お子さんが接種前に結核菌に感染している場合は、接種後10日以内にコッホ現象（接種局所の発赤、腫脹及び化膿が現れ、通常2～4週間後に発赤や腫脹がおさまり、消炎、瘢痕化する一連の反応）が起こることがあります。通常反応の発現時期（概ね10日前後）と異なり、早い段階で発現します。コッホ現象と思われる反応がお子さんに見られた場合は、医療機関を受診してください。この場合、お子さんに結核をうつした可能性のあるご家族など身近な方々も医療機関でのチェックが必要になります。

水痘ワクチン（オレンジ色の予診票）

【 水痘の予防 】

(1) 接種時期（水痘（1回目）とMRワクチン（1期）を同時接種でおこなっています）

1回目：生後12か月から15か月の間に接種

2回目：1回目の接種終了後6か月から12か月の間隔をおいて接種

(2) 病気の説明

水痘・带状疱疹ウイルスの初期感染によってひき起こされる感染症で、主な症状は発疹・発熱で、発疹は症状が出てから数日以内に250～500個以上に達します。発熱は通常38℃前後の発熱が2～3日続きますが、40℃を超えることもあり、その際に熱性けいれんを合併することがあります。

感染力の強い病気で5歳までに約80%の子どものかかるといわれています。健康な小児は一般的に軽症で済みますが、中には重症化し入院が必要となったり、稀に死亡することもあります。

(3) 副反応について

健康小児、成人では副反応はほとんど見られませんが、時に発熱、発疹がみられ、まれに局所の発赤、腫脹、硬結（しこり）がみられます。

MR【麻疹風しん混合ワクチン】（白茶色の予診票）

【 麻疹・風しんの予防 】

(1) 接種時期（MR（1期）と水痘（1回目）ワクチンを同時接種でおこなっています）

第1期：1歳から2歳までの間に1回接種

第2期：5歳以上7歳未満で、小学校入学前の1年間（年長児）に1回接種（個別にご案内します）

(2) 病気の説明

①麻疹とは（M）

麻疹ウイルスの空気感染によって起こります。感染力が強く、予防接種を受けないと、多くのかかる重い病気です。発熱、せき、鼻汁、めやに、発疹を主症状とします。最初3～4日間は38℃前後の熱で、一時おさまりかけたかと思うとまた39～40℃の高熱と発疹が出てきます。高熱は3～4日で解熱し、次第に発疹も消失します。しばらく色素沈着が残ります。

主な合併症としては、気管支炎、肺炎、中耳炎、脳炎があります。患者100人中、中耳炎は約7～9人、肺炎は約1～6人に合併します。脳炎は約1,000人に1～2人の割合で発生がみられます。また、亜急性硬化性全脳炎という慢性に経過する脳炎は約10万例に1～2例発生します。また麻疹にかかった人は、数千人に1人の割合で死亡します。

②風しんとは（R）

風しんウイルスの飛沫感染によって起こります。潜伏期間は2～3週間です。軽いかぜ症状ではじまり、発疹、発熱、後頸部リンパ節腫脹などが主症状です。そのほか眼球結膜の充血もみられます。合併症として、関節痛、血小板減少性紫斑病、脳炎などが報告されています。血小板減少性紫斑病は患者3,000人に1人、脳炎は患者6,000人に1人くらいです。大人になってからかかると重症になります。

妊婦が妊娠早期にかかると、先天性風しん症候群と呼ばれる病気により心臓病、白内障、聴力障害などの障害を持った児が生まれる可能性が高くなります。

(3) 副反応について

接種後0～28日に発熱、発疹、注射部位発赤、腫脹（はれ）、硬結（しこり）、じんましん、リンパ節腫脹、関節痛、熱性けいれんなどがみられます。

日本脳炎ワクチン（紫色の予診票）

【 日本脳炎の予防 】

（１）接種時期（個別にご案内します）

第1期初回：3歳から4歳までに6日～28日の間隔をおいて2回接種
第1期追加：1期初回接種終了後、1年の間隔をおいて1回接種
第2期：9歳から10歳までに1回接種

（２）病気の説明

日本脳炎はヒトからヒトへ感染するのではなく、ブタの体内で増えたウイルスが蚊によってヒトへ感染する病気で、7～10日間の潜伏期間の後、突然の高熱、頭痛、嘔吐、意識障害やけいれんをおこすウイルス性の急性脳炎です。感染者の100～1000人に1人が脳炎等を発症し、かつては致命率、後遺症を残す率が高く、現在でも致命率20～40%程度と考えられており、神経学的後遺症を残す例が多く、また、脳炎以外に不全型無菌性髄膜炎、夏かぜの様な症状もみられます。

国内では年間10人以下程度が西日本の高齢者を中心に発症し、海外では東南アジア、東アジアに広く分布し、当該地域では患者が多発しています。

（３）副反応について

このワクチンを接種した後にみられる37.5℃以上の発熱は、第1期初回の翌日に最も多く、次いで接種当日にみられると言われてしています。接種部位の腫れなどの局所反応は第2期での発生が最も多いと言われてしています。

7. その他

（１）実施の時期

予防接種にはそれぞれ適した年齢があります。保健カレンダーや広報でご確認のうえ、望ましい時期のうちに受けましょう。いろいろな事情で望ましい時期に受けることができなかった人も、法律で定められた接種対象年齢内ならその後も同様に受けられます。

（２）副反応がおこった場合

【通常みられる反応】

ワクチンの種類によっても異なりますが、発熱、接種局所の発赤・腫脹（はれ）、硬結（しこり）、発疹などが比較的高い頻度（数%から数十%）で認められます。

通常、数日以内に自然に治るので心配ありません。

【重い副反応】

予防接種を受けたあと、接種局所のひどいはれ、高熱、ひきつけなどの症状があったら、医師の診察を受けてください。

（３）予防接種による健康被害救済制度について

定期の予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障がでるような障害を残すなどの健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく補償を受けることができます。

補償は健康被害の程度等に応じて、医療費、医療手当、障害児養育年金、障害年金、死亡一時金、葬祭料の区分があり、法律で定められた金額が支給されます。死亡一時金、葬祭料以外については、治療が終了する又は障がい治療期間まで支給されます。

ただし、その健康被害が予防接種によって引き起こされたものか、別の要因（予防接種をする前後に紛れ込んだ感染症や別の原因等）によるものなのか、予防接種・感染症医療・法律等、各分野の専門家からなる国の審査会にて審議し、予防接種によるものと認定された場合に補償を受けることができます。

（４）八雲町以外の市町村で予防接種を受ける場合

いろいろな事情で八雲町に住民登録したまま他の市町村へ長期滞在している人が、滞在先で定期の予防接種を受ける場合、予防接種の依頼書が必要ですので、担当係までご連絡ください。滞在先市町村へ依頼書を送付いたします。依頼書がなければ予防接種は受けられませんので、ご注意願います。

用語の説明

●飛沫感染（ひまつかんせん）

ウイルスや細菌が、せきやくしゃみなどで細かい唾液（だえき）や気道分泌物につつまれて空気中へ飛びだし、約1mの範囲で人に感染させることです。風しんが飛沫感染します。

●空気感染（くうきかんせん）

ウイルスや細菌が空気中に飛びだし、1m以上を超えて人に感染させることです。はしか、水ぼうそう、結核が空気感染します。

●アナフィラキシー

通常接種後約30分以内に起こるひどいアレルギー反応のことです。汗がたくさん出る、顔が急に腫れる、全身にひどいじんましんが出るほか、はきけ、嘔吐、声が出にくい、息が苦しいなどの症状に続きショック状態になるようなはげしい全身反応のことです。

